

## つくりあげたネットワークで顧客のニーズに対応

コンピュータは、これまで入手困難だったあらゆる情報をわれわれに即座に提供してくれる。しかし同時に、それは情報の流出、プライバシー侵害などの問題を加速させているともいえる。

こうしたなか、株式会社フィット・デザイン・システムは、人間の静脈を利用した管理システムを開発、優れたセキュリティ対策製品として、多くの注目を集めている。

同社代表取締役社長の笠原英世氏は、コンピュータに携わって40数年。コンピュータの草創期から技術に関わってきた。「1965年に沖ユニバック株式会社へ入社して以来、いくつかの企業に在籍しましたが、コンピュータ一筋で今までやってきました。その間培った人脈があるからこそ、今日のフィット・デザイン・システムがあるのだと思っています」と語る笠原氏。

フィット・デザイン・システムは2002年、現在本社のある東京都八王子市に設立、今年で6年目を迎える。もともとは、CPUやメモリーなどを組み込んだボードの製作からスタートしたが、顧客のニーズに柔軟に対応しながら、センサーを中心とした応用技術や回路設計、システム設計、デザインなど、裾野を広げてきた。

# 世界No.1の指静脈認証システムを開発

株式会社フィット・デザイン・システム  
代表取締役社長 笠原 英世 氏



生活のなかでは、あらゆる場面でコンピュータが活躍している。座っているだけで、コンピュータで銀行口座の入出金ができる。キーボードのワンクリックで世界中のあらゆる情報をタイムリーに手に入れることができる。オープン化した情報の入手が容易になる一方、セキュリティも忘れてはならない重要な問題となっている。

02

Business Person

「われわれのような小さな企業では、顧客のニーズに対応していく柔軟性が非常に重要になります。ですから、お客さまから新たな要望が出るたびに、かつて働いていたときに知り合った方々や知人に声をかけながら挑戦してきました」と笠原氏は、自身がつネットワークをフルに活かし、今日のスタイルを確立してきたと話す。

## ユピキタス技術で勝負

フィット・デザイン・システムの一つの特徴として、熟練者が活躍している点が挙げられる。「自社の開発部門には、現在30名前後のエンジニアがいますが、それとは別に50歳以上のエンジニアが6、7名在籍しています。若手のエンジニアは、一部分に特化した技術はたいへん優れたものをもっているのですが、からすべてを自分でつくっていた時代に活躍してきた彼らは、オールマイティに対応できる心強いエンジニアとして、自社を支えてくれています」と笠原氏。

従業員一人ひとりがもつ技術を最大限に発揮できる環境をつくりだしていくことは、企業を成長させていくためには必要不可欠なこと。ましてや、顧客のニーズに柔軟に対応していかななくてはならない中小企業にとって、それは企業の生命線ともなる重要な要素といえるだろう。「あらゆる企業が、一つの技術に特化する

入退室管理用静脈認証機  
一般の入退室管理システムに  
容易に組み込めます



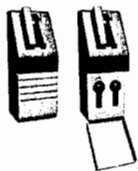
横型静脈認証機



縦型静脈認証機

**1Key 静脈認証管理Box**

既存設備に変更を加えないで、  
危険物置き場 劇薬置き場等の  
管理に最適



**耐環境特性に優れた  
指静脈認証器を開発**

2006年から、新たに自社製品の開  
発・販売を手がけているというフィッ  
ト・デザイン・システム。笠原氏いわく、  
「とんでもない開発費をかけた」とい  
うその製品とは、いったいどのようなもの

「この世界に40数年いるおかげで、困っ  
たことがあるとお願いでできる協力会社が  
何社もあります。ですから、つねに先端  
の技術を活かした製品を提供すること  
ができるのです」  
つまり社内だけでなく社外において  
も、笠原氏の培ってきたネットワークは  
存分に活かされているようだ。

ることで他社との差別化を図っているこ  
とが多いなか、わが社はどんな要求がき  
てもそれにフィットさせる設計、ユビキ  
タス技術で勝負しています」と笠原氏は  
自社の特徴を説明する。

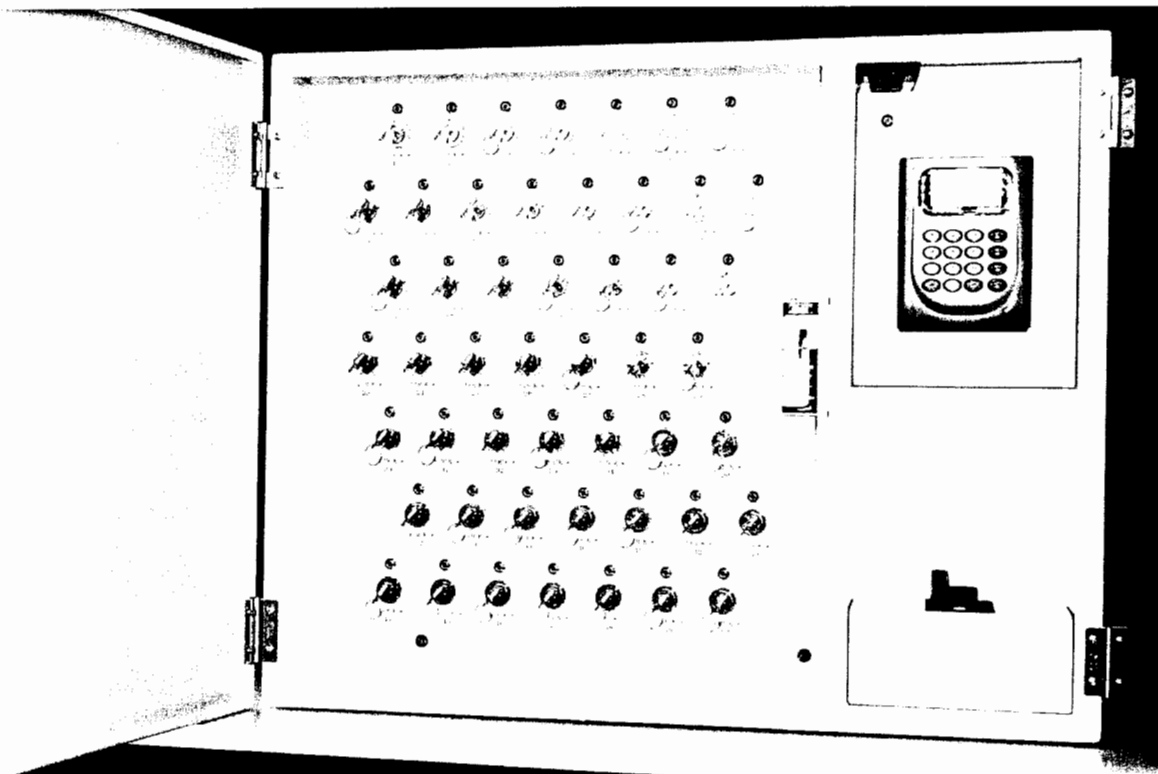
幅広く手がけることは、すべてがおお  
なりになるといふ危険性がある。しかし  
笠原氏は言う。

「使用温度環境マイナス15度、環境照度  
2万ルクスまでに対応した指静脈認証器  
です」と笠原氏。

既存の指静脈認証器では、一定の明る  
さが必要、寒冷地での使用ができないな  
ど、利用する環境の変化で認証精度が低  
下するという問題点がある。フィット・  
デザイン・システムでは、これらの問題  
点をすべてクリアにした、耐環境特性に  
優れた指静脈認証器の開発に成功したの  
だ。

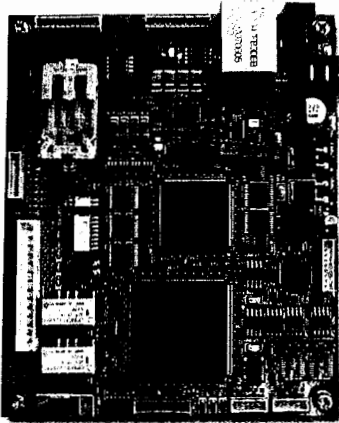
「生きている人間は、嫌なことがあつた  
り、寒いところにいると血流が少なくな  
ります。すると、静脈の見えるパターン  
が変わってしまうんですね。そこを徹底  
的に詰めていって、北海道大学の教授に  
もご協力を得て、人間がどう動くかとい  
う部分から研究を重ねていきました」と  
笠原氏は説明する。

現在発売されている製品には、そのほ  
かにも鍵管理機能、データベース、履歴  
データ保存機能などのオプションも組み  
込まれ、価格が他社の同類製品に比べて  
約2分の1に抑えられているというのも

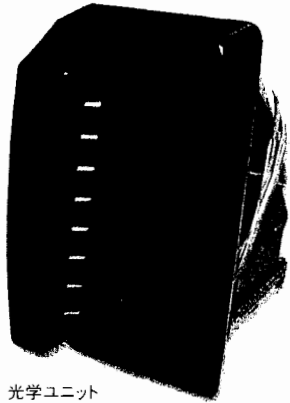


静脈認証鍵管理Box (50Key)

多数の鍵管理を静脈認証機を静脈認証だけで容易にできます



制御回路



光学ユニット

大きな魅力だ。

## 今年 は 勝負の年

「現在は、企業や病院などの入退室管理システムとして各所で採用していただいています」と言う笠原氏。認証速度も1秒以内と極めて早く、多数の人が入退室する場所でも快適に使用することができ。また、高性能ながらサイズもコンパクトに抑えられているので場所を選ばず、配線、ほかの管理システムとの結合も容易にできるといふ。

さらに、組み込み用のユニット部品も販売されており、それぞれの用途や目的に応じたセキュリティ機器の開発も手がけている。

「セキュリティ製品なので、何よりも信頼性をもっとも重要になります。何か問

題があったときに責任問題が大きいですからね。どのお客さまも評価をていねいに行つたうえで採用していただいています」と笠原氏。そのため、即座に売上として跳ね返るわけではないというが、「徐々にお客さまへ浸透してきている今年は、一つの勝負の時期だと考えています」と笠原氏は、今年を勝負の年に位置づけている。

## 今後は家庭向けを開発

指静脈認証器は銀行のATMシステムなどで見受けられるように、大手企業も手がけている分野であるため、市場の開拓は決して安易なことではないという。「われわれ中小企業は、開発が強くてはどうしても大手に比べると売るところが弱い。土俵を大手と一緒にしては勝



静脈認証重要書類保管庫  
登録した指によって  
異なる引き出しが開きます

ち目はないので、われわれは海外への販売展開も積極的に行っています」と言う笠原氏。

現在はアメリカ・ニューヨークに販売代理店があるほか、台湾セコム社のグループ企業と提携していくことが決定しているという。

さらに今後の展開として笠原氏は、「現在はおもに企業向けの製品として展開していますが、今後はスペックを維持したままより低価格で、マンシヨンなど家庭向けのものもつくっていきたくと考えています」と話す。

指静脈認証器そのものだけでなく、そこにあらゆるオプションを備えることで付加価値をつけ、中小企業にしかできないきめ細やかな対応で市場を開拓していくフィット・デザイン・システム。そこにはやはり、柔軟性と応用性が必要になってくる。

「われわれは技術屋集団として、CPUボード、センサー、通信ソフト技術の3本柱を軸に、これからも『何でも屋』を目指していきたいと思っています」と笠原氏は笑顔で締めくくった。

## Profile

### 笠原 英世

かさはら ひでよ

1946年生まれ神奈川県出身、61歳。小金井工業高校を卒業後、沖ユニバック株式会社に入社。コンピュータの生産技術や品質保証部門で20年間勤務したのち、凸版印刷株式会社で10年近く開発に携わる。その後、数社の企業を経て2002年、フィット・デザイン・システム株式会社を設立、同社代表取締役社長に就任、現在に至る。



## 株式会社

### フィット・デザイン・システム

〒193-0803

東京都八王子市栖原町

1481-4

TEL 0426-26-7118

<http://www.fit-design.com>